

クリニカルパスと薬剤師業務再構築 Restruction of pharmaceutical service in clinical pathway

○飛野 幸子¹(¹ 済生会熊本病院)

クリニカルパス（以下パスと略す）を導入する施設が増加する中、薬剤師のパスへの具体的な取り組みについて質問を受ける事が多い。パスは医療現場の現実的なフレームワークであることから、パスへの関わりは薬剤師が臨床現場への関わり方を示す指標のひとつとしても捉えることが出来る。つまり、薬学的な視点で患者のアウトカム達成を目指して日々どのように業務を行っているかを見直す作業でもある。パスの作成から、運用、評価、改訂のどの過程においても薬物療法は必須であるため、薬剤師が活躍する場面は多い。

パス作成においては、根拠に基づいた薬物療法の提示を行う必要がある。このような視点で薬剤師業務を見直してみると、従来から行っていた調剤、製剤、医薬品情報（D I）などの様々な薬剤師業務が、現場に直結した新鮮なものになる。絶えず新しい医薬品情報を入手し、批判的吟味を行い、現実の医療に適應するまたとない機会でもあり、薬剤師の実力が問われる。また、薬物療法の現状分析を行うことで、現場での問題点が見えてくる。病棟薬剤師はパスに最も近い存在である。患者のアウトカムこそが我々の目指すところであり、パスを契機に感染管理や栄養サポート（NST）、リスク管理など組織横断的なチームへの糸口ともなる。チーム医療の中で薬学的な視点でパスに積極的に関わることが、病院薬剤師業務再構築のひとつの方法でもある。